



「ワンパッケージ」で賃上げ政策を

NHK番組 志位委員長が提案

日本共産党の志位和夫委員長は、9日放送のNHK「日曜討論」各党代表インタビューに出演し、国民の生活を立て直して深刻な日本経済の低迷を打破するために、政治の責任で「ワンパッケージ」の賃上げ政策を実行に移すことを提案しました。



志位和夫委員長

志位氏は、日本経済の最大の問題は大企業の内部留保が244兆円に達して空前の「カネ余り」になる一方で、働く人の賃金（年収）が12年間で61万円も減り、家計・内需が低迷して経済成長が止まった国になっていることだと指摘。「この事態を打破するために、『ワンパッケージ』で賃上げ政策を実行に移すことを提案したい」と力をこめました。

志位氏が提起したのは、(1)労働者派遣法を抜本改正して非正規社員を正社員にする(2)中小企業にきちんと手当をしながら最低賃

金を時給1000円以上に引き上げる(3)雇用の7割を抱える中小企業を本格的に支援して大企業の労働者との賃金格差をなくしていく(4)日本航空のような無法解雇をやめさせて解雇規制のルールを強化する—という4本柱。

「政治の責任で賃上げを主導していくことを強く求めていきたい」と強調しました。

内政・外交—改革の展望語る

志位氏は、「民主党政権に裏切られ、自民党にも戻れない」という深い閉塞（へいそく）感が広がる中、「米国・財界中心」の政治のゆがみを正せばどんな展望が開けてくるかを「大いに語っていきたい」と新年の抱負を表明。社会保障、税制、農業、外交などさまざまな分野で、日本共産党がめざす改革の展望を語りました。

志位氏が提起した賃上げ政策4本柱

- ▽労働者派遣法を抜本改正して非正規社員を正社員にする
- ▽中小企業にきちんと手当をしながら最低賃金を時給1000円以上に引き上げる
- ▽雇用の7割を抱える中小企業を本格的に支援して大企業の労働者との賃金格差をなくしていく
- ▽日本航空のような無法解雇をやめさせて解雇規制のルールを強化する

また、いつせい地方選挙について、「自治体の原点は『住民の福祉と暮らしを守る』ことにありますが、実際に起こっているのは自治体の独自の福祉の施策を切り捨て、大企業呼び込みのために莫大（ばくだい）な税金をつぎ込むことです。これを改めるために、共産党を大いに伸ばしていきたい」と決意を述べました。

市政・県政むすんで 市民の命と暮らし守ります

産業高校跡地に新病院計画

尼崎の医療体制充実に

がんばります

「県立病院の存続と充実」をもとめた市民8万人の声が県政を動かしました。

兵庫県は昨年12月21日に、県立新病院を産業高校跡地に建設すると発表しました。

2014年度に開院をめざし、基本構想にそった 時間365日断らない救命救急センター、高度専門医療等を含む計画です。

しかし、県立塚口病院廃止後の市北部地域の医療体制を

どうするかの実体化はされていません。

尼崎の救急医療と市北部の地域医療体制充実のために、市民のみなさんと力あわせがんばります。

交通公園

県立西武庫公園の存続を

存続を求める会結成—署名運動へ

兵庫県は「第2次行革プラン」で、尼崎市の厳しい財政状況を知らながら、県立西武庫公園（交通公園）は「市が委譲を受けなければ、廃止する」としています。

年間60万人が利用し、桜の名所ともなっているこの公園は、市民の憩いの場、コミュニ

ニティー・教育の場としての大切な役割を担った公園です。

昨年12月26日に、私も呼びかけ人となった「県立西武庫公園の存続を求める会」が結成され、「県立公園として残りてほしい」との署名運動が取り組まれています。

「子ども」ってなに？

「子ども・子育て新システム」を考える学習会

国政府、関係の省庁・関係機関「子ども」に代わる「子ども子育て新システム」を2017年度中に基本構想をまとめる。関係省庁関係機関が参加し、議論を進めています。

この新システムが、実際にどうなるのか、関係省庁関係機関が参加し、議論を進めています。

この新システムが、実際にどうなるのか、関係省庁関係機関が参加し、議論を進めています。



本当に育児がなくなるの？
幼稚園と保育所の一体化って？
保育料はどうなるの？



◇とき 2月11日(祝)
午後2時～5時

◇ところ 労働福祉会館
中ホール

◇講師 辻井 直也氏
(神戸市立西宮高等学校)

※参加費を定めました。お申し込みください。



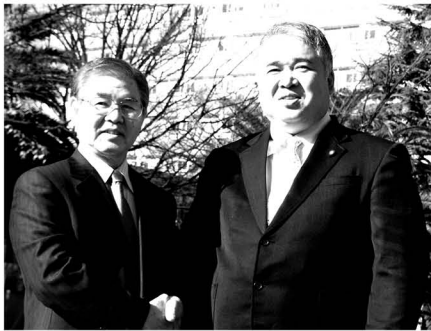
主催 日本共産党尼崎市会議員



財政が苦しいというのなら
県道園田西武庫線の
道路づくりは凍結を

三菱電機工場内を縦断する
県道園田西武庫線は、尼

崎市の負担52億円もの借金が増えます。稲村市長は代表質問で「現時点で事業凍結を求めることは難しい」と容認する答弁。市民のいのちと暮らしより、道路づくりを優先する姿勢が問われます。



前県会議員の宮田しずのり氏と
来年の健闘を誓い合う早川市議